

膨大な種類の仏具と 職人さんたちのまとめ役

仏具の組立や修理も

仏壇の中には仏像、位牌、鈴、燭台が飾られ、その前には木魚、お経机、卓などさまざまなものが置かれています。こうした仏教の儀式に用いられる道具や飾り物を仏具といいます。仏壇も広い意味での仏具に入りますが、一般には仏具と仏壇は異なる職人さんによってつくられます。仏具は一般家庭用の仏具と寺院用の二つに大別されます。

仏具は小さなものから大きなものまで非常に多くの種類があり、さらに同じものであっても、宗派や地方によって形式が異なるため、膨大な種類となります。名古屋佛具卸商協同組合は仏具の間屋さんたちが集まった組合ですが、単なる卸ではなく、膨大な種類の仏具を宗派ごとに区分けし、仏具の組み立てや修理などもおこないます。かつては職人ごとにいくつかの組合や団体がありましたが、いまでは職人さんの数が減り、そうした組合のなくなったところもあります。そこでさまざまな仏具の職人さんたちの取りまとめ役のような立場にもなっています。

若者に関心を持ってもらう工夫



名古屋佛具卸商協同組合の設立は昭和38年です。組合員の数は減少傾向です。全国的にマンション住まいが増え、住環境の変化に伴い仏壇のない家が増えていることも大きな理由です。一般家庭用仏具の需要が減少している反



面、寺院関係の仕事は増えています。最近は家庭用の仏具にもガラス製の燭台や球形の鈴といった現代風のお洒落なものが見られます。仏壇も小さく、家具調のものが好まれるようになってきました。形式よりも実用性が重視されつつあるようです。

しかし、伝統的な面も大切にしていかなければなりません。そこで平成18年頃から、お釈迦さんの生誕日である4月8日に、中区仏教界の依頼で仏壇商組合と協同し、名古屋のデパートで花祭りをおこなっています。さらに秋におこなわれる職人展では木魚の製作や鉛筆への金箔押し、若い人にも人気の腕輪数珠の製作体験などもおこない、若い人に、仏具への関心を持ってもらうための試みにも取り組んでいます。

DATA ■名古屋佛具卸商協同組合

所在地：中区橘一丁目16-33

・昭和38年：名古屋佛具卸商協同組合設立

・平成18年：名古屋のデパートで花祭りを開始